

ヨコハマbプラン（生物多様性横浜行動計画）：平成24年度までの取組状況【速報】

取組方針1 普及啓発

誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます

重点アピール1 b-プロモーション

子どもたちと地域社会、活動団体とのつながりを強める取組を実施しました。「出前講座」「助成金」「表彰制度」を基軸に据え、また全国的な動きを捉えたプロモーションを、市民団体・企業等と連携しながら実施しました。

ヨコハマbフェスティバル

平成24年度には、生物多様性自治体ネットワーク総会の横浜開催と横浜市の代表選出に合わせ、普及啓発キャンペーン「ヨコハマbフェスティバル」を開催しました。開催にあたっては市民団体、企業など様々な機関と連携・協働しながら企画・実施しました。



【ヨコハマbフェスティバルコアイベント】 コアイベント参加者合計約5,000人

ヨコハマbデイ2012	CEPA ジャパン／共催:横浜市 他
生物多様性自治体ネットワーク定期総会／ミニフォーラム	生物多様性自治体ネットワーク／横浜市
第2回生物多様性全国ミーティング	UNDB・J・環境省／共催:横浜市
ヨコハマ環境行動フェスタ2012	横浜市

環境教育出前講座

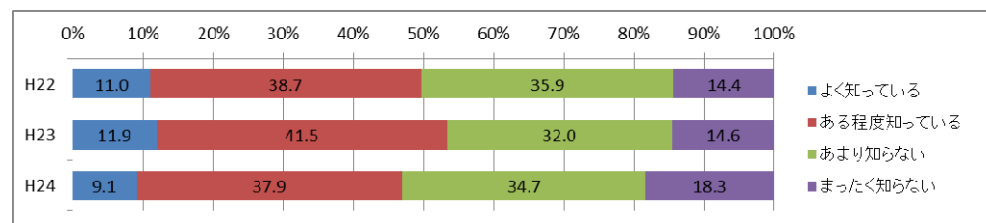
	目標値	平成23年度		平成24年度	
		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数
プログラム提示型	—	100回	8,226人	84回	7,669人
オーダーメイド型	—	23回	1,827人	31回	2,466人
合計	130回	123回	10,053人	115回	10,135人

環境団体への活動支援

	目標値	平成23年度		平成24年度	
		件数	金額	件数	金額
環境保全活動助成金	20団体	8団体	744千円	11団体	966千円
環境活動賞		11団体		22団体	

「生物多様性」という言葉の認知度について調査を行っており、平成24年度調査で「よく知っている」「ある程度知っている」の合計は47%で、一定の認知は得ていると考えられます。

環境に関する市民意識調査(1,000人の登録モニターによるインターネット調査)より



重点アピール以外の取組

市内3動物園で毎年約300件の環境教育事業を実施した他、横浜市繁殖センターで科学スクールやシンポジウムを開催しました。また、繁殖センターでは、希少鳥カンムリシロムクノ保全にインドネシア政府と協働で取り組み、24年度には25羽を現地に送致し、職員が現地でも保全活動を実施しました。

取組方針2 保全・再生・創造

地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

重点アピール3 『谷戸』環境の保全と活用

市民参加による「田んぼの生き物調査」の取組を活用し、谷戸の自然環境への理解を深めました。

田んぼの生き物調査実施内容

平成23年度	1か所	新治恵みの里(緑区)
平成24年度	6か所	環境学習農園(瀬谷区・青葉区)、田奈恵みの里(青葉区)、農のある地域づくり協定(緑区・青葉区)、農地流動化促進事業の市中間保有地(泉区)

重点アピール4 つながりの森

学校、市民団体、企業等を対象としたアンケートを行い、また市民参加によるワークショップでの活発な議論により、平成24年7月「横浜つながりの森構想」を策定しました。

「横浜つながりの森構想」の概要

「横浜の生物多様性の宝庫である「横浜つながりの森」を市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいく」ことを将来像として掲げ、「生き物の多様性を大切にする」と「自然を楽しむ」を2本の柱として、取組を推進していきます。



重点アピール以外の取組

地区指定による緑地保全や生物多様性に配慮した公園整備など、横浜みどりアップ計画を中心とした保全・再生・創造の取組を推進しました。

横浜みどりアップ計画による主な保全の取組

	平成23年度	平成24年度
緑地保全制度による地区指定の拡大(新規指定面積)	104.6ha	107.6ha
市民協働による緑地維持管理事業(保全管理計画策定)	3か所	5か所
水田の保全・活用の推進(多面的機能を持つ水田の保全)	109.7ha	114.4ha

身近な生き物に着目したまちづくり

環境活動助成金を活用し、チョウがくるビオトープづくりへの活動支援を行いました。さらに、トンボを指標とした市民団体、企業、学校との連携事業を支援しました。

取組方針3 しゅくみづくり

保全や評価などに取り組むしゅくみづくりをすすめます

重点アピール2 鳥類の生き物探検

と市民参加の生き物データバンク

生き物への関心を持ってもらうきっかけとして、身近な「鳥類」に着目した携帯用図鑑を、日本野鳥の会の協力により、作成、発行しました。

・「ミニミニ野鳥図鑑」
配布部数：30,000部
配布先：小学校、
拠点施設など



平成23年度には河川域生物モニタリング調査を実施し、外来種が増加の傾向にあることを公表しました。平成24年度には秋・冬に9か所で海域生物モニタリング調査を実施しました。

また、庁内に蓄積した情報をデータベース化に取り組み、平成24年度は、一部データベースの公開を開始しました。

・生物多様性に関する報告書一覧
・環境科学研究所水域生物相調査結果

重点アピール6 生物多様性を守

り、豊かにするしゅくみづくり

国連大学高等研究所と都市政策に寄与する生物多様性指標の検討を行いました。また、国における生物多様性指標の検討に対して情報提供等を行いました。



重点アピール以外の取組

横浜市役所としての率先行動として、ISO14001の取組「横浜市ISO環境マネジメントシステム」の行動目標に「生物多様性の保全」の項目を新たに設けるとともに、研修による意識啓発に積極的に取り組みました。

取組方針4 まちづくりと経済活動

生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

重点アピール5 つながりの海

水質・底質・生物相などの各種調査を実施しました。付着性生物に配慮した護岸構造や藻類の定着に配慮した浅場形成などの検討を行いました。また市民団体との連携イベントや意見交換を行いました。

重点アピール以外の取組

「環境未来都市・横浜」の実現に向けて、水や緑、港や歴史ある建物、環境に配慮した住宅などのある多様なまちなみが、低炭素交通網やスマートグリッドなどで結ばれるとともに、災害に強い都市づくりを進めました。

【エキサイトよこはま】

エキサイトよこはま22エリアにおける環境ガイドラインを改定しました。

【横浜スマートシティプロジェクト】

CEMSとBEMS、HEMS、FEMS等を連携し、本格実証を開始しました。

企業、活動団体との交流会

「ヨコハマbデイ」を実施し、市民団体、企業、学校の取組を紹介するとともにポスターセッションを兼ねた交流会を開催しました。



食と農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルへの支援

地産地消に貢献する企業等への支援を実施しました。

平成23年度支援件数：3件

平成24年度支援件数：4件